

清流

西粟倉中学校だより

令和8年5月21日(木) 発行



15の春の自立を地域とともに目指す活力のある学校

(学校教育目標)

未来を拓き たくましく生きる力の育成 ~ 自律 協働 挑戦 ~

(校長雑感)

1学期も、気づけば間もなく折り返しを迎えます。生徒たちは各教科の授業の流れにも慣れ、先生とともに熱心に授業をつくろうという姿が見られるようになってきました。また、総合的な学習の時間「あわくらみらい学」では、学年ごとに具体的な取組が進み始めています。生徒自身が問い(課題)を立て、その解決に向けた方法を考え、提案したり行動に移したりするなど、生徒たちは日々、探究的な学びに挑戦しています。(その途中経過の一部は、学校ホームページでも紹介しています。)まずは、11月5日の学習発表会での発表に向けて、取組を深めていってほしいと思います。



昨年度、秋田県で1週間の研修を行った職員の報告を受け、年度末に左のような3つのポイントを示し、日頃から意識していこうという方向性を考えました。そして、生徒会執行部の生徒たちにタイトルを考えてほしいと伝えたところ、「THE 西粟倉中!!」という案を出してくれました。学校から示した、話し方(Talk)、聴き方(Hear)、共感(Empathy)という3つの視点の頭文字に着目し、「THE」としてまとめてくれたものです。探究活動をはじめ、現在の授業では話し合いを行う場面が多く

ありますが、その中でこれらを意識することの大切さを、日頃から伝えていきます。

現在、国レベルでは、次の学習指導要領(学校の授業等の在り方)について議論が進められています。その議論の出発点の一つとして、学校が「多様な子どもたちの集団」であるという認識があります。本校にも、さまざまな生徒が通学しています。多様性とは、様々に表現できますが、〇〇が好き、〇〇が得意・苦手といったことも含め、一人ひとりが異なる個性(違い)をもっていることにもつながります。その「違い」を前提に協働する(話し合いながら一つのことを成し遂げる)ことで、自分一人では思いつかなかった新たな発見や考えに出会うことがあります。

ここで、上記の「共感」にもつながることですが、自分との違いを排除するのではなく、「お互いを認め合うこと」や「相手の立場に立って考えること」の大切さにもつながり、これからも学校全体で意識していきたいと思っています。